



富山湾でとれたメガネラッパ

1991年12月16日、富山県下新川郡朝日町赤川沖にて、地元で漁業をしている浜川要吉さんが水深11~12m、砂底にはられたヒラメの底刺網に、今まで見たことのない奇妙なカニがとれ、種名を調べてほしいと水族館を訪れた。

カニはすでに死亡しており、甲幅10cm、甲長6cmで、鉗脚は大きく扁平で、顔をかくすように甲の前面をすっぽりおおい、眼のまわりに赤紫色の環状の斑紋があることなどからメガネカラッパであることがわかった。

メガネカラッパは東京湾以南、東南アジア、インド洋、ベルシャ湾に至る暖かい海にすみ、太平洋岸ではイセエビの刺網にかかるが、日本海ではきわめて珍しく、富山湾での記録はない。

成体の移動能力はきわめて小さいので、おそらく幼生か稚ガニの状態に対馬暖流にのって日本海を北上、富山湾で着底し、成長したものと思われる。水族館ではホルマリン固定の後、乾燥標本として1月2日より一般展示した。

(加野 泰 男)